



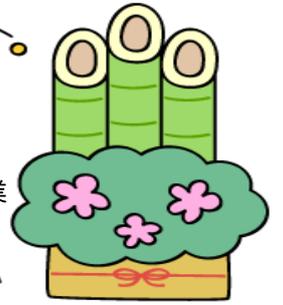
にじのへやだより

令和4年1月発行

(vol.5)

病児保育室にじのへや

蕨市病児・病後児保育事業



新春のお慶びを申し上げます。

昨年は多くの方にご利用いただき、子どもたちの素敵な笑顔にたくさん関わらせていただく事が出来ました。何度かご利用いただいているご家庭とは、共に成長の喜びを共有することができ、とても嬉しいです。当園をご利用の際は、お子さまのご体調についてや、ご家庭でのケアの方法など看護師や保育士にお気軽にご相談ください。

今年度も残り3ヶ月、どうぞ宜しくお願い致します。



HAPPY NEW YEAR 2022



11月〈利用内訳（年齢別）〉12（名）登録者数129（名）

0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	学童
0	7	4	1	0	0	0	0

12月〈利用内訳（年齢別）〉14（名）登録者数129（名）

0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	学童
0	3	6	3	2	0	0	0

利用児童の疾患

- 1、上気道炎 14名
- 2、胃腸炎 6名
- 3、咽頭炎 6名

11月は暖かい日が続きましたが、急に寒くなると胃腸炎などの感染症になるお子さまが増えました。食事は無理をせず、食べやすいものを少しずつ摂取して様子を見ました。

病児保育では、1日を通して同じ保育者がお子さまに付き添うので、お子さまのペースで1日を過ごすことができます。

まだまだ寒い日が続き、インフルエンザなどの感染症も増えると予測されるので、手洗いうがいや室温湿度の調整をして、快適に過ごせるようにしています。

保育の様子☆

お家から安心できるアイテムを持ってきてゆったりと遊びました。



体調に合わせて自分のペースで伸び伸びと遊ぶことができました。

大好きなご飯の時間☆自分で椅子に座って、ご飯を食べました。



クリスマスの製作

かわいい手形は、サンタさんのおひげになりました。





おくすりについて



病気の治療にお薬はかかせないものですが、飲ませるのに苦労する…という保護者様の声を、よく伺います。そこで今回は、お薬の上手な飲ませ方について、考えてみたいと思います。

子どもには、散剤や顆粒剤などのいわゆる「こなぐすり」と、シロップ剤がよく使われます。こなぐすりは、投与量を個々に合わせて細かく設定できるなど、利点も多いですが、薬の味(特に苦み)、ざらつき、量の多さなどにより内服が苦手なお子さまが多いです。

【お薬を飲む前に】

- ・お子さまの発達に合わせて、お薬を飲む理由を説明します。お薬を飲む理由を理解することで、お子さまがお薬をきちんと飲めるようになることがあります。
- ・お薬によっては、剤形(こなぐすり、シロップ剤、錠剤など)を選ぶことができるものもあります。お子さまが好む剤形がある場合は、あらかじめ医師に伝えておきましょう。



【お薬を飲むとき】

通常、こなぐすりは水と一緒に飲みますが、内服を嫌がる場合の飲ませ方の工夫をご紹介します。

～乳児におすすめ～

- ・小さな容器の中にこなぐすりをあけ、数滴の水を加えてペースト状に練ります。手をきれいに洗って、練ったお薬を指先につけ、口の中(ほほの内側や上あご)にぬりつけます。その後お薬が口の中に残らないように、飲み物(母乳・ミルクでもよい)を飲ませます。
- ・小さな容器の中にこなぐすりをあけ、少しずつ水を加えてシロップ状(液体)にします。溶かしたお薬をスプーンやスポイト(薬局やドラッグストアで手に入る)を使って飲ませます。その後お薬が口の中に残らないように、飲み物(母乳・ミルクでもよい)を飲ませます。



～幼児におすすめ～

- ・こなぐすりに水を少量(20mlくらい)加えて溶かし、飲ませます。その後お薬が口の中に残らないように、飲み物を飲ませます。
- ・服薬補助ゼリー(市販)や好みの食べ物・飲み物に溶かして内服させます。その後お薬が口の中に残らないように、飲み物を飲ませます。



※飲食物に混ぜるときの注意点

- ・お薬を飲ませる直前に、1回分ずつ、できるだけ少量に混ぜる。(お薬を混ぜてから時間がたつと、薬の成分が変わってしまうことがあります。また、お薬をたくさんの量のものに混ぜてしまうと、それを全部食べ(飲ま)なければならなくなってしまう。))
- ・ミルクやごはんにお薬を混ぜない。(味が変わってミルク嫌い、ご飯嫌いになってしまう場合があります。)
- ・混ぜることにより味が悪くなるもの、お薬の効果が低下するものには混ぜない。(例えば、オレンジジュース・スポーツ飲料・乳酸菌飲料・ヨーグルトなどの酸性の飲食物に混ぜると苦みが増すお薬があります。)
- ・1歳未満の場合は、はちみつには混ぜない。(1歳未満でののはちみつの摂取は、「小児ボツリヌス症」を発症する場合があります。)

【お薬を飲んだあとは】

- ・うがいをしたり、好きな飲み物を取り、口内に不快感が残らないようにします。
- ・頑張ったことを十分にほめ、シールを貼るなど、がんばりの継続を動機づけます。
- ・内服後は遊んだり、あやしったりして気分転換をはかります。

にじのへやのご利用方法など、詳しくはこちら→→→



【にじのへやでお薬を飲むときは】

・医師の処方による内服中のお薬(1回分・要記名)とその説明書(処方せんやお薬手帳)・お薬を混ぜる飲食物(ご家庭でお薬を飲食物に混ぜて内服している場合)・スプーンやスポイト(ご家庭で内服時に使用している場合)をお持ちください。お子さまに合った方法でお薬の内服をお手伝い致します。

